

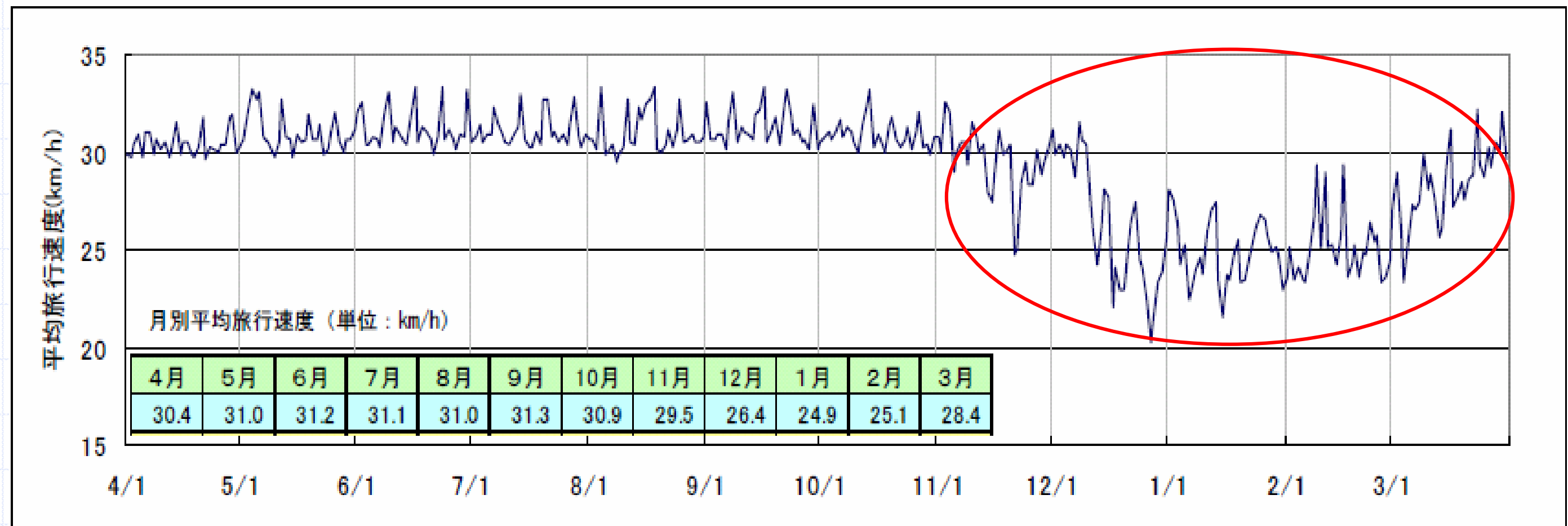
走行時間短縮便益等の算出方法について

1. 冬期の交通状況について

- ◆ 現行の交通流推計は、年間における平均的な1日を想定して行われている。
- ◆ 冬期の積雪や凍結により、走行速度や交通容量が低下するなど、冬期の交通状況が通常時と大きく異なる場合がある。



冬期の交通状況(北海道)



日別平均旅行速度の推移(北海道札幌市:平成14年度)

2. 通行止めの交通状況について

- ◆ 現行の交通流推計は、年間における平均的な1日を想定して行われている。
- ◆ 災害等に伴う通行止め時には、大きな迂回が生じるなど、通常時と異なる交通状況が発生する。

	通常時	通行止め時
整備なし (without)		
主な利用ルート	現道	代替路(迂回路)
整備あり (with)		
主な利用ルート	新設道路(バイパス)	新設道路(バイパス)

図 with、withoutの場合の交通流のイメージ

3. 冬期や通行止めの交通状況に配慮した便益算定の考え方について

- ◆ より交通の実態に即した便益測定とするため、冬期や通行止めの期間を通常の期間と切り分けて、それぞれの期間に対応した便益を算出し足し合わせることにより、1年間の総便益を算出することとしてよいか。

$$\text{総便益(/年)} = \text{通常時の便益(/日)} \times \text{通常時日数} + \left\{ \begin{array}{c} \text{冬期の便益(/日)} \\ \text{or} \\ \text{通行止め時の便益(/日)} \end{array} \right\} \times \left\{ \begin{array}{c} \text{冬期日数} \\ \text{or} \\ \text{通行止め日数} \end{array} \right\}$$

(それぞれの交通流推計より算出)

$$\text{※通常時日数(日)} + \left\{ \begin{array}{c} \text{冬期日数} \\ \text{通行止め日数} \end{array} \right\} = 365(\text{日})$$

- ◆ 冬期や通行止めの日数は、対象地域における実績から設定
 - 冬期の日数は、対象地域の過去5年程度の実績値(降雪日数、除雪活動日数など)から積雪や凍結など交通状況が変化する路面状況の期間を設定
 - 通行止めの日数は、災害等の不確実性を考慮し、過去10年程度の実績値から設定 など
- ◆ 冬期や通行止め時の交通状況(QV式、道路網など)は、対象地域の実情を考慮して設定